

ものがたりライブを始める前の下見の話の続き。

照明と音響をチェックしたら、次は温度と空調をチェックする。

空調施設が完備したホールなら、なんの問題もないが、小学校の体育館では気を使わなければならないことがいくつかある。

とくに体育館は夏暑く、冬寒い。

暑すぎたり寒すぎたりすると、話を楽しむどころではなくなってしまう。

先に、子どもたちは床にペタンとすわるのか、教室からいすを持ってきてすわるのかを担当の先生に確認する。

とりあえず床にペタンとすわるというなら、下見の時、床に手をあててさわって温度を確認する。

こういうところに気を使っていると、それを見た先生方も冬なら「防災ずきんを座布団代わりに持ってこさせようとか、いそいで大型ストーブをひっぱりだそう」とか手を打ってくれる。

もちろん、たいていの先生はぼくが頼まなくとも、子どもに良かれといろいろ考えてくれる。

だが、ぼくの実体験だが、体育館で「もう少し、暖かい方が…」という「子どもたちは寒いのに慣れてますから」の一言ですまそうとした担当の先生がいた。

横で聞いていた校長先生があわてて、「床にすわるのではなく、各自が教室からいすを持ってくるようにさせましょう」と指示をだした。

いすにはざぶとんがくっついているのだ。

床に直接すわるのは下から冷えてくるから、断然その方がいい。

体の鍛錬は他の機会にやってくれればいい。

話はそれるが、温度が関係ないなら、すわるのはいすと床とどちらがいいだろう？

これは通常の45分なら床でやれる。

子どもたちは床に座り、ぼくはその前で立ってしゃべるから、子どもたちにもぼくの姿が大きく見やすくていいと思う。

だが、たまに60分とか90分で頼まれることがある。

学校では45分が基本的にいいとは思う。

図書館でするライブなら、お話好きな子が聞きたくて集まってくるから90分させてもらおうし、聞けると思うが、学校にいる子はみんながみんな、ものがたり好きではない。

とはいえ、学校でも高学年ならできないわけでもない。

「期待には応える」がモットーだから、頼まれれば受ける。

そのかわり、いすで聞いてもらえるよう、担当の先生にお願いする。

子どもだって長時間なら、大人同様にいすの方が楽に決まっている。快適な状態の方がものがたりを聞く方にエネルギーをまわせるのは当前のことだ。

温度だけでなく、空気のきれいさにも気配りをする。

春秋の季節のいい時なら会場の窓を一度あけて、いい空気を入れてもらう。

ただし、会場によるが本番中の窓の開閉は要注意だ。

しめた方がいい場合も多い。

体育館なら後ろはステージに決まっているが、会場が教室で

とくに一階の場合はあぶない。

子どもの側から前や後ろに外の景色が見えると、まちがいなく気が散る。

校庭で他のクラスが体育をしていたり、廊下を誰かが通るだけでも

子どもは横を向く。

低学年の場合、それだけでもう、話の進行がわからなくなってしまうたりする。

以前、三重県の海岸沿いの町の小学校で呼ばれたことがある。

海から上がった高台で、しかも会場の多目的室はその三階にあった。

部屋の窓からは日の光にキラキラ光る熊野灘が青く広がって、まさに絶景だった。

案内してくれた先生も「どうです。自慢の景色です。杉山さんにお見せしたくて…」と言ってくれた。

だが、これはぼくの方が景色に見とれて、話を忘れてしまいそうだ。

「今、たっぷり見せていただきます」と言って、本番の時はカーテンをひかせてもらった。

思い出したのでつけくわえる。

都内の私立の小学校に呼ばれたときのことだ。

よく手入れされた中庭があった。

着いたら、下見についてくれた司書さんが「天気もいいし、今日はここをものがたりライブの会場にしてもいいですよ」と言ってくれた。

季節は初夏で緑の芝がきれいにそろい、花壇には色とりどりの花が咲いていた。いかにも絵になる場所だったが、これもやはり辞退した。

ぼくは外で語るのはなるべく避けたい。

きれいな自然とお話の相性がよさそうと考えるのは、はっきり言って錯覚だ。

ものがたりの語りは、みんなが聞く気になって初めて成り立つ世界だ。

だから集中しやすいように作るのが基本だ。

歌舞伎でも芝居でも落語でも同じだが、芸事の会場に窓がなく

密閉空間になっているのは客の気がまぎれないようにしたいからだ。

中庭でするとして、外では物音がまったくくないのは考えられない。

語りは他のジャンル以上に雑音に弱い。

さらに外では虫がいついき出てきただけで進行がとまってしまったりする。

そんなハプニングのリスクをかかえこむことになる。

自然がきれいなのはわかるとして、それはあとで楽しんでもらえばいい。

今はものがたりの世界に集中してもらいたい。